

文書館 もんじょかん ニュース

山口県文書館

Yamaguchi Prefectural Archives

No.52

contents

- 朝鮮通信使関係資料 2/3
- 公文書を守るために 4
- 平成29年度新収諸家文書を紹介します 5
- 平成大合併後の公文書保存状況確認調査 6
- 山口県立大学生の来館 6
- 近代山口県の海辺あれこれ 7
- 第12回AW「防長と海」 7
- 明治150年記念文書館資料小展示 8

大正期「三田尻塩田」(解説P7)

このたび、当館の「朝鮮信使御記録」（県庁伝来旧藩記録）13点がユネスコ「世界の記憶」の「朝鮮通信使に関する記録」に登録されました。この記録群は正徳元年（1711）に將軍徳川家宣の襲職祝賀のため来日した江戸時代第8回の通信使の接待記録ですが、当館にはそのほかにも、朝鮮通信使の関連資料が数多くあります。

「朝鮮通信使」とは、室町時代から江戸時代にかけて朝鮮王朝から日本へ派遣された外交使節団の通称です。室町時代、日本国王使に対して信（よしみ）を通わす使者として派遣されたのに始まり、豊臣秀吉に向けても派遣されましたが、文禄・慶長の役（壬辰・丁酉倭乱）によって日朝間の国交が断絶したために中断し、江戸時代に再開されました。

朝鮮との交流は江戸幕府の威信を示す機会であるとともに、重要な文化交流のきっかけともなりました。

下表の右に●印のある通信使の記録の一部を紹介します。

室町時代の通信使

室町時代の通信使は倭寇の禁圧対策の要請及び日本の国情視察を主目的としていました。

回	年	目的・名称
第1回	正長 2年(1429)	將軍就任祝賀、足利義教・大内盛見と通好
第2回	永享11年(1439)	旧交、足利義教・大内持世と通好
第3回	嘉吉 3年(1443)	將軍就任祝賀、足利義勝・大内教弘と通好

秀吉時代の通信使

秀吉は対馬の宗氏に命じて交渉にあたり、天正18年(1590)に通信使が来日しました。文禄の役の後も和平は成らず、慶長の役後に国交は断絶しました。

回	年	目的・名称
第1回	天正18年(1590)	日本統一の祝賀、朝鮮侵攻の噂の真偽確認 ●
第2回	慶長 元年(1596)	日本の再出兵の動きを知り帰国

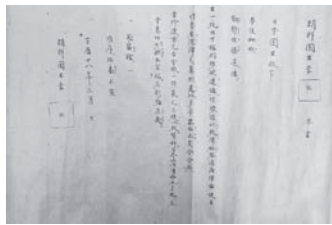
江戸時代の通信使

江戸幕府の外交政策において、朝鮮は正式な国交のある「通信国」で、貿易国と位置付けられた中国・オランダとは一線を画す相手国でした。

回	年	目的・名称
第1回	慶長12年(1607)	日朝国交回復、捕虜返還。回答兼刷還使
第2回	元和 3年(1617)	国内平定祝賀、捕虜返還。回答兼刷還使
第3回	寛永 元年(1624)	家光襲職祝賀、捕虜返還。回答兼刷還使 ●
第4回	寛永13年(1636)	泰平祝賀 ●
第5回	寛永20年(1643)	家綱誕生祝賀 ●
第6回	明暦 元年(1655)	家綱襲職祝賀 ●
第7回	天和 2年(1682)	綱吉襲職祝賀 ●
第8回	正徳 元年(1711)	家宣襲職祝賀 ●
第9回	享保 4年(1719)	吉宗襲職祝賀 ●
第10回	延享 5年(1748)	家重襲職祝賀 ●
第11回	宝暦14年(1764)	家治襲職祝賀 ●
第12回	文化 8年(1811)	家斉襲職祝賀(対馬にて易地聘礼) ●

【秀吉時代第1回使節】

明の征服を企図した秀吉から朝鮮国を服属させるように命じられた対馬の宗氏は、日本を統一した秀吉を祝う使節を朝鮮に求めました。これが天正18年(1590)の通信使で、写真はそのときにもたらされた国書の写しとされるものです。

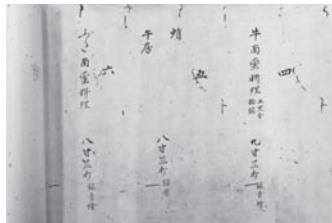


「朝鮮国王国書」(毛利家文庫*3他家4)

【第3回使節】

第1回から第3回使節までは「回答兼刷還使」であり、日本に連れ去られた被虜人を朝鮮へ連れ帰ることを目的とした使節でした。

写真はその正使への、下関における饗応献立の一部で、4献と6献に「牛南蛮料理」「ぶた南蛮料理」と記されています。



「長門国於赤間関朝鮮勅使献立」
(遠用物近世前期1225)

【第8回使節】

ユネスコの記憶遺産に登録された資料群です(写真上)。

この年の通信使は、新井白石による接待改革のなかで行われました。待遇は簡素化されましたが、往路の赤間関(下関)ではこれまでどおり宴席が設けられ、感銘を受けた信使が萩藩主毛利吉元に贈った返礼品が山口県立山口博物館にのこっています(国指定重要文化財「正徳元年朝鮮通信使進物並進物目録」)。

写真中は下関の様子です。阿弥陀寺(現赤間神宮)や引接寺が接待所にあてられました。

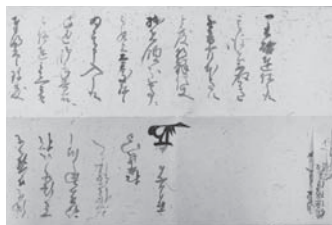
写真下は通信使一行を護送した船団図です。いずれも写真上の資料に付随しています。



「朝鮮通信使御記録」
(県庁伝来旧藩記録877~889)

【第4回使節】

この通信使一行が往路、領内を無事通過したことを、11月17日に萩藩主毛利秀就(松平長門守)が大坂定番稲垣摂津守(重綱)に対して報告し、年寄(のちの老中)への伝達を頼んだものです。



「毛利秀就書状」(毛利家文庫*4毛利家39)

【第9回使節】

この年、萩藩主毛利吉元が藩校明倫館を創建しました。藩内には文武興隆の機運がみなぎっており、初代学頭の小倉尚斎は弟子たちを連れて信使一行と面会し、製述官申維翰たちと詩文の筆談唱酬をおこなっています。

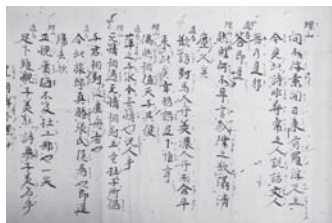
写真の「両関唱和集」(吉田樟堂1074)はその記録です。版本の序文は儒学者伊藤東涯が書いています(吉田樟堂の筆写本)。



【第5回使節】

この回の読祝官朴安期(螺山)が江戸で林羅山(道春)・鷲峰(春斎)親子とおこなった筆談の問答の一部です。羅山との詩の唱酬の資料も残されています。

前年、上関では客館となる御茶屋の拡幅のための大工事が行われました。



「朝鮮信使朴螺山対林道春同春斎唱酬詩句」
(毛利家文庫*7 外国 4)

【第10回使節】

延享5年(1748)の接待における上関の御茶屋の普請差図です。通信使の座敷、諸役人の部屋割りから調度品の調えまで詳細に描かれています。

このほか、御茶屋の下手にあった長屋周辺の普請図には、將軍献上の鷹の餌となる鳩小屋・雀小屋も記されています。

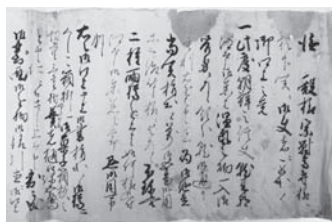


「上ノ関御茶屋御普請差図」
(毛利家文庫58絵図658)

【第6回使節】

萩藩士林吉兵衛(就里)が藩主毛利綱広の使者として、下関で対馬藩主・宗対馬守(義成)に口上を述べたときの覚です。

当館の「林潤介文書」にはこのほか、通信使接待の報告書、復路の口上覚なども含まれています。



「朝鮮信使来朝宗対馬守へ御口上覚」(林潤介文書89-3)

【第11回使節】

宝暦13年(1763)から翌年にかけての第11回使節に関する記録は、当館の毛利家文庫に大量に残されています。

また、このとき萩藩の儒者・医師であり国史・仏教等にも精通し、藩主毛利重就の侍講ともなった滝鶴台(長愷)らが通信使側の書記らと筆談唱酬した記録が『長門癸甲問槎』(ながときこうもんさ)で、明和2年(1765)に明倫館から刊行されました。



(上)「宝暦13年朝鮮通信使記録」
(毛利家文庫42御勤事86(1~17))
// 同 87(1~60))
(下)滝鶴台『長門癸甲問槎』
(吉田樟堂1212・1213)



【第12回使節】

結果的に最後となった第12回は、対馬で来聘行事が行われましたが、当館の佐川家文書(現熊本郡平生町佐川島)や徳山毛利家文庫の「朝鮮人来聘記」などによると、萩藩にも幕吏が対馬に赴く際の諸役が割り当てられていました。



徳山毛利家文庫「朝鮮人来聘記」

公文書を守るために

「将来にむけて、過去から学び、現状を知る」

―第八回「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」の開催―

平成二十九年十月三十日、山口県教育会館において、第八回「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」を開催しました。この会議は当館が主催するもので、県内市町の文書管理や文化財保護を担当する方々等にお集まりいただき、情報交換や現状課題の共通認識をはかることを目的に、年一回開催しています。

加えて今年の会議は、中国・四国地区の文書館・公文書館等の職員が集まる「中国・四国地区文書館等職員連絡会議」との共同開催となったため、県内にとどまらない、より広い課題について考えることができました。

そうしたことから今回は、公文書の散逸・滅失の危機をテーマに設定しました。その要因となり得るもののひとつに自然災害があります。そこで天草市立天草アーカイブズの橋本竜輝氏に、「平成二十八年熊本地震における公文書被災について」と題する御講演をいただきました。

平成二十八年四月に発生した熊本地震が、熊本県内各地に大きな被害をもたらしたことは記憶に新しいところです。橋本氏は県内唯一の公文書館職員として、地震発生直後から公文書の被災状況を確認すると共に、支援

ニーズの把握に努められました。また平成十八年七月、集中豪雨によって河川が氾濫、旧河浦町役場庁舎が水損し、多くの役場文書が被害を受けた際の御経験もお話いただきました。地震や集中豪雨は決して他人事ではなく、日頃から危機意識を持つことが重要です。そうした中、公文書が被災した時に、相談窓口を予め知っているか、また目の前の公文書の被災が、支援の必要な案件であることに気付けるかが公文書を保存できる分岐点になるとの御指摘がありました。これは、被災経験をお持ちの方の言葉として重く受け止められました。

公文書の散逸・滅失は天災だけではなく、人為的にも発生するものです。そこで当館が平成二十六年から実施してきた「市町村役場文書の保存状況追跡調査」の総まとめとして、今年度に実施した「保存状況確認調査（現地確認調査）」の成果を、当館の吉田真夫専門研究員が「山口県における市町村役場文書の保存状況に関する追跡調査結果について」と題して報告しました。平成の市町村合併から十年余りが経過し、再び市町の公文書の保存場所を訪ねると、庁舎の建て替えが進みつ

つありました。庁舎の改築や移転にあたっては、公文書への目配せが後回しになりがちです。引越作業の喧噪の中、確認することなく書庫の公文書を「古い・汚い・使わない」と判断して、歴史的に重要な公文書も一括して廃棄してしまうようなことは絶対に避けなければなりません。そうした失敗をしないために、一時的な措置に過ぎませんが、遊休施設で公文書を保存することを薦めました。まずは公文書を「残す」ための工夫です。

歴史的に重要な公文書を守り伝えるために、天災に対する備えの必要性和、人災を招かない適切な判断の重要性を学んだ一日となりました。



橋本氏による講演の様子

講演の最後に橋本氏は、「震災記録の保存は、熊本や他の地域のレジリエンス（復元、防災力）を高める。未来に伝える使命がある。」とまとめられました。

平成二十九年 度

新収諸家文書を 紹介します！



今年度、一〇家・三六九点の諸家文書の閲覧を開始しました。その中から二つの文書群を紹介します。

■高家文書

高家は、江戸時代に萩藩領小郡宰判台道村（現、防府市台道）を領した萩藩寄組児玉五左衛門家の家臣だった家です。高和は、明治期に大道村会議員・大道村長を務め、その子安彦は朝鮮総督府に奉職し、慶尚南道内務部長・京畿道警察部長・京畿道知事・朝鮮総督府嘱託錬成部長等を歴任しました。のち山口市長や防府市長も務めています。



愛国婦人会京畿道支部龍仁部分会総会記念写真（高家文書238）

文書の内容は、①台道村の小村絵図や字切図、②地券等の土地関係文書、③高和一の関係文書、④明治、昭和初年の種痘修了証、⑤高安彦宛書簡類、⑥高安彦に関する写真等に大別されます。

■寺戸家文書

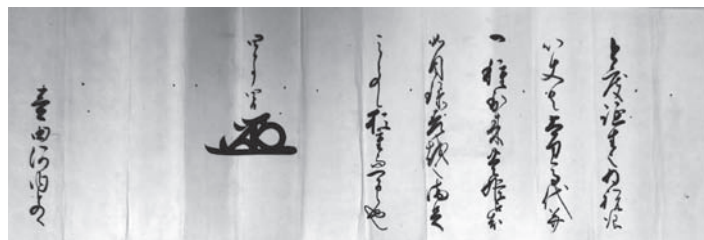
寺戸家は、江戸時代に萩藩領前大津宰判瀬戸崎浦（現、長門市仙崎）に居住した有力な町人で、同地の浦庄屋や惣年寄、浦仕組方、鯨組仕与方頭取等々の諸役を務めた家です。

文書の内容は、寺戸家が浦庄屋や藩主滞在時の本陣等の諸役を務めたり、たびたび献金したことに対して、藩府が苗字唱や帯刀免許等の身分的特権を与えたことに関するものが大部分を占めます。また、寺戸始吉が支配人を務めた下関倉庫株式会社の大正、昭和戦前期の辞令などもあります。

■問田益田家文書

問田益田家は、萩藩永代家老益田家の分家で、益田元祥の次男景祥に始まります。寛永検地後に周防国吉敷郡問田（現、山口市問田）を本拠とし、代々の当主は、当職や加判役等を歴任しました。

文書の内容は、すべて萩藩主から問田益田家の当主に対して宛てられたもので、慶事の祝儀に対する礼状が大部分を占めます。



毛利宗広書状（問田益田家文書2）

■平成29年度の新収諸家文書

No.	文書名	点数	主な文書の年代	文書群の特徴(関連地域、個人・家の歴史、就任役職等)
1	岩見博幸収集史料(追加)	35	近世	コレクション
2	高家文書	281	近世～近代	朝鮮総督府
3	佐伯隆収集史料(追加)	508	近世～近代	コレクション／周南市小山家(町議員／区長／商家)
4	鶴田家文書	339	近世～近代	庄屋／村会議員／地主／油板場
5	寺戸家文書	31	近世～近代	浦庄屋
6	問田益田家文書	4	近世	萩藩士寄組
7	古畑家文書(追加)	160	近世	コレクション／和田家(長府藩庄屋)
8	松原家文書(追加)	4	近世	萩藩士(無給通)
9	山野家文書(追加)	6	近代～現代	軍人
10	元森家文書(追加)	1	近世	和歌

平成の大合併後の 公文書の保存状況確認調査を行いました！



当館は「平成の大合併」の際、市町が保存する公文書の状況調査を実施しました。さらに平成二十六年から、その後の状況を把握するために追跡調査を続けてきましたが、今年度その総まとめとして、「保存状況確認調査」を実施しました。かつて「昭和の大合併」の後、庁舎等の移転や建て替えに伴い、それまで保存されていた公文書が大量に廃棄されたケースがありました。そうしたことを繰り返さないために、今回は以前の調査で把握した市町の公文書保存場所の中から、文書の保存状況が変わった場所や、保存場所（庁舎等）の建て替えが完了または進行中の場所を中心に、文書館職員が直接出向いて現状を把握することとしました。その結果、市町の御協力を得て、四五ヶ所の現況を確認することができました。

前回の調査から約十年が経ちましたが、現地を実見し、全体的な保存状況は良好との印象を受けました。その一方で、現状での管理や保存のあり方に課題があると感じた場所もありました。

当館としては、課題をひとつずつ解決しながら、歴史的に重要な公文書が適切に保存されるよう、引き続き市町と連携を密にして取り組んでいきたいと思っています。



下関市立豊北歴史民俗資料館での調査風景

文書館を使ってみたい！ 山口県立大学生の来館



文書館では学校教育支援のひとつとして、生徒・学生みなさんの文書館見学訪問を積極的に受け入れています。

平成二十九年十一月、山口県立大学国際文化学部文化創造学科のみなさんが「地域文化実習Ⅱ」の環で来館されました。この講座は地域資源の活用に取り組んでおり、これまでに、秋穂霊場八十八ヶ所の「お接待」を遺していくための食文化を活かした旅の提案、寺内正毅ゆかりの地をめぐるまち歩きツアーなどを実践してきました。今回の訪問は、そうした活動に文書館資料を取り入れるための調査とこのことでした。

館員が館の概要や館蔵資料の検索と閲覧の仕方などをガイダンスした後、各自がテーマに沿って資料を閲覧しました。

文書館を使うのは初めてという方もあり、「文書館での体験は自分の手で地域の文化を調査している実感が持てた」、「周囲で熱心に調べ物をされている方がいて、刺激になった。誰にも知られていない歴史を発掘している現場に立ち会っている印象だった」、「キーワードを入れて検索すると、見てみたい古文書がたくさん出てきてワクワクした。時間がいくらあっても足りない！」などの感想をいただきました。

これを機に、文書館を活用されることを期待しています。



■資料紹介―「防長と海」こぼればなし― 近代山口県の 海辺あれこれ



写真1は昭和十三年（一九三八）五月、関門鉄道隧道

開通前の下関側の海辺の様子が刻まれた図面です。鉄道省直営ステーションホテル「山陽ホテル」、さらに「関門連絡」「関釜連絡」「貨車航走」を冠した施設名称は、水陸交通の結節点下関の都市機能を示しています。貨物車輛ごと対岸の小森江駅に搬送する貨車航走事業は、宮本高次が明治四十二年（一九〇八）に手がけた我国初の画期的な輸送形態でした。駅左手には、貨物用の臨港鉄道も伸びていたことがわかります。海峡への出入口には、かつては跳上橋（写真2）が設けられていました。

写真3は大正期の三田尻塩田の光景。大島小松・柳井・平生・下松・福川・富田・三田尻・秋穂・小月などに展開していた塩田風景は、瀬戸内の海辺を象徴する景観の一



写真1



写真2



写真3



写真4

写真1：下関土木出張所発行「下関港修築計画概要図」（行政資料30国20）

写真2：昭和9年竣工「細江橋梁」（『大下関港』石川卓美365）／国内有数の橋梁技術者山本卯太郎設計のバスキュールブリッジ（跳上橋）。彼の率いた山本工務所は日本の建設コンサルタントの草分け的存在として知られる。山本の可動橋理論の集大成とされる末広橋梁（三重県四日市市）は重要文化財に指定されている。

写真3：「三田尻塩田」（大正11年『大正天皇皇后行啓写真帖』劔持家512）／大蔵省三田尻専売局の建物、塩田労働者の姿が鮮明に写りこんでいる（表紙参照）。

写真4：「佐波郡西浦村電信事務開始請願書添付図面」（大正3・4年「内務部庶務課雑件」県庁戦前A総務489）

つでした。写真4には、佐波郡の西浦村や中関村の塩田の様子が描かれています。これらの塩田地帯は、やがて工業用地に転用され、昭和期には臨海工業地帯へと変貌を遂げたのです。

大蔵省設計の塩務局事務所や煉瓦造保管庫などの建築遺構、小舟が行き交った入川の痕跡、舟運確保のために橋桁を高く持ち上げた石の刎橋などが、かつての塩田地帯の繁栄を物語ってくれます。

第12回中国四国地区アーカイブズウィーク 防長と海 ―その記録と記憶―



平成二十九年度のテーマは「海」。流通と移動、生産と産業、戦いと友好、港と船などの視点から防長と海の歴史を紹介しました（六月一日〜十日）。アーカイブズ展示（閲覧室）では、当館が所蔵する二つの国指定重要文化財の旗である、過所旗（能島村上家文書）と日明貿易船旗（高洲家文書）を並べて展示しました。両日の展示解説シート三〇枚はウェブサイトでダウンロードできます。

歴史探究講座（十日）では、岸田裕之広島大学名誉教授に「海の大名能島村上氏と秀吉政権」と題し講演をいただきました。あわせて当館の和田秀作専門研究員が国指定重要文化財能島村上家文書について解説しました。恒例のアーカイブズ歴史小話（十二日）では、当館職員が当館資料を用いた防長と海に関する研究報告をリレー形式で行いました。

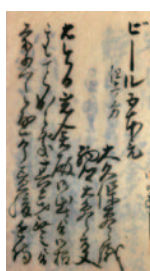
平成三十年度は「音（おと）」がテーマです。

明治150年記念資料小展示(2018年1月～2019年3月)

■「文書館資料にみる幕末・明治の人・物・文化」

年	月	回	タイトル
平成30 (2018)	1～2月	1	「維新の三傑」と山口とビール
	3月	2	「明治双六」でたどる近代日本 -1868～1903-
	4月	3	奇兵隊士のいでたち
	5月	4	新収資料紹介 長井家文書 -書状にみる長井雅楽-
	6月	5	幕末の唄～トコトンヤレ節・ちょんがれ節～
	7月	6	明治初年 大村益次郎の手紙
	8月	7	近代に祀られて
	9月	8	万国博覧会参加の記録 -1893年シカゴ万博-
	10月	9	明治期 華族の日常
	11月	10	明治期の山口県布達
	12月	11	貌～描かれた近代・撮された近代
平成31 (2019)	1～3月	12	明治期の灯台

明治150年の今年1月から来年3月にかけて、文書館閲覧室での月間小展示を「文書館資料にみる幕末・明治の人・物・文化」と題して行います。館蔵資料の中から、主に幕末から明治期にかけての人・物・文化に関わるあまり知られていない「お宝」資料を紹介していきます。ささやかな展示ですが、大きな発見と館蔵資料が語る歴史の面白さをお伝えします。なお、展示期間の詳細、休館日等は当館webサイトでご確認ください。



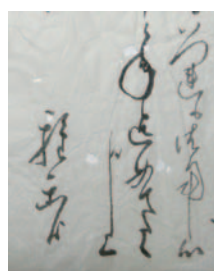
1・2月 ビール



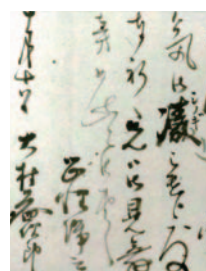
3月 明治双六



4月 奇兵隊士



5月 長井雅楽



7月 大村益次郎



6月 幕末の唄



8月 祀られて



9月 シカゴ万博



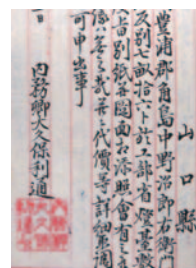
10月 華族の日常



11月 明治期の県布達



12月 描かれた近代



31年1～3月 明治期の灯台



山口県文書館

〒753-0083 山口県山口市後河原150-1
TEL083-924-2116 FAX083-924-2117 <http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>

利用時間

【開館時間】 火曜日～日曜日 9:00～17:00

【閉館日】 月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。
閲覧室へは2階へお上がり下さい。
※毎月の開館・閉館日は、当館webサイトの閲覧室カレンダーをご覧ください。